

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171800259		
法人名	NPO法人グッドシニアライフ		
事業所名	グループホーム和居和居		
所在地	岐阜県土岐市泉町大富174		
自己評価作成日	平成22年2月20日	評価結果市町村受理日	平成22年4月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171800259&amp;SCD=320">http://kouhyou.winc.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2171800259&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成22年3月19日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かで落ち着いた環境のホームは、近くに公園があり散歩に出掛けた際はご近所の方と挨拶を交わし、野菜等をいただいたりしています。ホーム内でも利用者とともに野菜を作ったりしています。また、学習療法を取り入れ頭の体操を行い、コミュニケーションに取り組み利用者との関わりを大切に考えております。運営推進会議、家族会に地域の方家族の皆様が積極的に参加され、庭の畑の活用を考えなどの協力をしていただけても助かっています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から7年が経ち、地域の一員として受け入れられ、安定した運営が見られる。利用者は、近所の人達に温かく支えられながら、我が家に居るような暮らしが営まれている。職員は、高齢者を先輩として敬い、思いや意向を汲み取りながら、一人ひとりが安心して、心地よく居られるように、利用者の気持ちに寄り添うケアに努めている。現在取り入れている学習療法は、利用者が自ら好んで取り組み、脳の活性化が顕著であり、コミュニケーションの場で大きな効果が表れている。法人が理念として掲げる医療・介護の連携と生活の質を高め、地域社会から求められるホームを目指し、実践している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念があり、毎日目の届くところに貼っており、職員は理念に基づいたサービスを実践している。	地域に根差し、我が家のような暮らしができるように、利用者本位の理念を掲げ、全職員が日々確認、共有しながら実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩での地域の方との挨拶を交わし、事業所の行事での交流、七夕コンサート、夏祭り、地域の行事での交流を行っています。	自治会の一員として、地域の行事や会合に参加している。回覧板でホームの情報を発信するなど、良好な関係を築き、地元のボランティアや子どもたち、近所の人々もよく訪れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等を通じて、認知症の講演への参加の呼びかけを行い地域の方にも認知症の理解を促進しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見をミーティングでスタッフに伝え、サービスに活かしています。	運営推進会議は、地域住民、行政職員が毎回参加して2ヶ月毎に行われている。これまでは、行事中心の推進会議であったが、現在は、多様なテーマを議題とし、特に、参加者・家族等の意見、アイデアを運営に反映した内容となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者の運営推進会議参加時に、事業所の取り組みを伝え、情報の交流を行っています。	市とは、スプリンクラー設置に関する補助金申請などで相談し、完成している。介護保険課への業務報告や相談は、常時メールで行っている。また、市の介護相談員を毎月受け入れ、指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はしておらず、問題となる行為が発生した時点は、スタッフで話し合い身体拘束をしないケアの取り組みを行っています。	身体拘束はしないことを、事業所の方針とし、実践しており、これまでも行われていない。玄関の鍵は開放され、利用者が自由に入出入りしている。職員は、鍵を掛けることの弊害をよく理解し、対応している。	身体拘束の具体的な行為、やむ得ない場合の判断、家族への対応等、さらに学習の機会を広げることが望ましい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会に取り上げ、虐待防止について学んでいる。資料を回覧し学んでいます。		

岐阜県 グループホーム「和居和居」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を理解し、活用できるよう関係者には勧めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時の説明を行い納得理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、家族会等で意見を聞き、運営に反映している。玄関、各ユニットにも意見箱を設けています。	家族の意見は、運営推進会議や訪問時に直接聞いて対応している。利用者の意見は、担当職員が、思いを汲み取りながら、介護日誌に記録して全職員で共有すると共に、事業所内には、速やかに対処するための仕組みを設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング、毎日の申し送り等で意見を聞き反映している。	毎日のミーティングと、毎月1回の定例会議で、職員の意見や要望、アイデアを話し合い、運営に反映させている。ケアや看取りに関することや、防災意識、勤務体制、腰痛対策など多様な意見が出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の職員の面談を行い、自己評価、管理者評価を行い意見等を理事に報告する。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践研修に参加をして認知症の理解、勉強を行い、法人内での勉強会も行っている。 掲示板にて、研修や講演会のお知らせを掲載しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認知症研修に参加し交流すると共に、ケアマネ連絡協議会に参加して、サービス向上に取り組んでいます。		

岐阜県 グループホーム「和居和居」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	インテークに自宅を訪問し環境を把握して、本人が安心できる環境を確保する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	インテーク時等、家族からの要望を聞き情報を収集する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今まで利用していた環境を出来るだけ利用できるよう家族の協力を得ている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームは利用者の生活の場「家」であり、支援の必要な場面を介助して、関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアカンファレンス、家族会を行い本人、家族の意見要望を聞いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族は面会にこまめに来てくださったり、家族と外出の機会を増やし馴染みの美容院、歯科に行く。年賀状のやりとり、友人の面会もあります。	家族・親戚・友人の訪問が多い。毎月訪れるマジック、五感健康法の地元ボランティアの人たちとも馴染みの関係である。また、馴染みの美容院や商店、自宅周辺へのドライブを、家族と協力しながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	学習療法を通して利用者同士の会話が弾むよう支援し、日常生活の中での利用者同士の関わりもされています。		

岐阜県 グループホーム「和居和居」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、その後の家族会に出席をしてくださったり、自家製の野菜を持ってきて下さったりと立ち寄ってくださいます。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	学習療法を通して会話の中から、本人の想いを把握して暮らしに役立っています。	日々の利用者と職員のコミュニケーションの中から、利用者の多くは、退屈しないで、何か役割を持ちたいとの思いや意欲を把握している。ベランダで草花を育て、水やりや畑の種まき、習字、脳トレ、音読、計算、数字合わせなどの形で支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、本人の暮らしぶり生活歴、家族の思い等を把握してサービスに繋げる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る能力を見極め、プランに挙げ実施している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のミーティングにて検討して、関係者より意見を聞きカンファレンスを行う。	全職員でカンファレンスを行い、医師などの関係者や本人・家族と話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎の定時見直しと、入退院や状態の変化に合わせて、随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を記録に残し職員間の情報共有し、ケアに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	内科受診、美容室への支援等家族、本人の状況に合わせて対応する。		

岐阜県 グループホーム「和居和居」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩に出掛けていくことで地域の方と顔見知りとなり挨拶を交わす。子供会との交流も行いました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は認知症の専門医であり、訪問診察を受け相談をしています。必要者は訪問歯科も実施しています。必要に応じて医療機関の受診も行っています。	家族の同意の下で、かかりつけ医を法人医に統一している。月2回の往診と24時間連絡体制があり、適切な医療を確保している。総合病院への受診は家族と連携して対応し、歯科は、必要に応じ訪問治療を受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と24時間体制で対応、相談でき指導を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院、退院の際の情報をいただけるよう相談し関係づくりを心掛けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ケアカンファレンス時、終末期におけるチームケアの説明を行っています。	入居時に、終末期の対応について、家族と同意書を交わしている。重度化の経過の中で話し合い、再確認をしている。自然な看取りについては、支援体制と、5例の実績があり、職員の経験が蓄積されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署が行う救急救命の講習会に参加し、マニュアルも作成している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、災害備蓄品の準備がしており、運営推進会議では地域の方にご協力をお願いをしている。	年2回、消防署の指導による訓練と自主訓練が、各1回ずつ行われている。利用者の避難経路、避難場所を定め、近隣の協力が得られることになっている。消防署直通の通報装置、スプリンクラー、連絡網を整備している。	周辺が住宅に囲まれていることから、スプリンクラー設置後の危機対応の向上、通報装置、職員の高い防災意識、避難通路の再確認等について、近隣の人々に実態を見てもらう取り組みにも期待したい。

岐阜県 グループホーム「和居和居」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた声掛けをしている。	人生の先輩として敬い、プライドや誇りを損ねないような言葉掛けに配慮している。居室に入るときは許可を得たり、視線を低くして話したり、さり気ないトイレ誘導に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけの仕方を疑問系にして自己決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の状態をみて、本人の希望をお聞きしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容にて身だしなみを整え、衣類も選んでいただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好きな献立、季節感を取り入れています。食事の準備片付けも一緒に行っています。	利用者の好みや季節の食材を献立に採り入れ、職員も一緒に同じ食事を摂り、楽しい会話で雰囲気盛り上げている。利用者は、芋の皮むきなどの前処理や配膳・片付けを担っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事チェック表にて管理して、水分チェックも行う。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、必要者には訪問歯科指導を受ける。		

岐阜県 グループホーム「和居和居」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人の排泄リズムで、トイレ誘導、介助を行い自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄リズムを把握し、小まめにトイレ誘導し、自立を支援している。布パンツやパッドを使い、おむつの使用を減らしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスのとれた食品で積極的に食物繊維を摂っています。個人に合わせて散歩運動をする。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりにあわせて入浴を勧めています。	週3回、午後の時間帯に入浴を提供している。順番にこだわる人はいないが、入浴嫌いの人がいるので、空腹時を避け、精神的に落ち着いたときを見逃さず、浴槽に誘導している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後自室にて休息したりされます。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人個人に合わせた服薬支援をおこない、薬の理解を努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の水やり、日めくり、手すり拭き、食事づくり、畑作業等支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の天気、体調に合わせて公園、近所に散歩に出掛けています。また、家族の協力を得て遠足に出掛けています。	近くには公園があり、約30分かけ、住民と挨拶を交わしながら日常的に散歩している。また、年間を通じ、近郊の名所や花見など、家族の協力を得ながら外出の機会を支援している。	

岐阜県 グループホーム「和居和居」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心される方、不安になる方に応じた個別の対応を行っています。また、家族スタッフと買い物に出掛け購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を出したい等希望のある方は、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日めくり、時計を置き、1日の生活リズムを整え、季節の掲示をしたり、四季の音楽を流しています。	玄関正面に、華やかに雛壇をかざり、四季の音楽を流している。広い居間では、学習療法や趣味の作品づくりなどで、多くの時間を楽しく過ごしている。廊下には習字や作品などを飾り、窓越しの庭や畑に季節の野菜や草花が見えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは好きなおところで過ごし、気の合った人同士自室等でおしゃべりしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時使い慣れた家具筆筒、鏡台等を持ってきていただく。	使い慣れた家具や鏡台のほか、位牌や仏壇、馴染みの小物類などが持ち込まれ、居心地に配慮されている。窓越しのベランダには、自ら育てたプランターの花や、周辺の家並みが見えて、生活感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ることに目を向けたケアをすることで、生き生きとした生活を送る。		